

(目次) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

- 1 設置の趣旨やディプロマ・ポリシーにおいては、統合医療を
研究・目的の一つとして掲げているが、基本計画書における大
学院の目的、学部の目的等においては統合医療についての言及
がないため、適切に改めること。(是正事項) . . . P・1～2
- 2 学生確保の見通しについて、既設の薬学部における過去の入
学定員充足率が高いとは言えないことに加え、既設学部の在学
生アンケートをみる限り、卒業後すぐに大学院への進学を希望
する者が少数であることを踏まえると、学生確保を十分に行え
るか懸念が残る。このため、客観的な根拠に基づいて学生確保
の見通しを具体的に説明すること。(是正事項) . . . P・3～12
- 3 外国人留学生の積極的な受け入れを図るとあるが、資格要
件・履修指導・生活指導等についての記載がない。外国人留学
生の、経費支弁能力の確認、入学後の履修指導、生活指導、在
籍管理体制について明らかにすること。(是正事項) . . . P・13～16
- 4 入学者選抜について、以下の点が不明確であることから、明
確に説明すること。 . . . P・17～21
 - (1) 募集人員は各選抜方法合わせて2名としており、複数設
けられている選抜方法の優先順等が不明確なため、明確に説明
すること。また、選抜全体の採用方針についても明確に説明す
ること。
 - (2) アドミッション・ポリシーでは「薬学に関する基礎的学
力と研究技術を身に着けている」学生を受け入れることが求め
られているが、例えば社会人入試においては、出願資格におい
て必ずしも大学の薬学分野に関する履修経験を求めておらず、
専門科目等も課していないことから、同項目に基づいた学生を
選抜できるか明確ではない。各選抜方法において、当該能力を
どのように判定するのか、具体的に説明するか適切に改めるこ
と。(是正事項)
- 5 学習成果の評価方法や学位審査の体制について、概略の説明
のみで全般的に不明確であることから、学習成果の評価方法や
学位審査に関する内規・規程・同審査における審査体制の規定
等、プロセス全体が分かる資料を示すこと。(是正事項) . . . P・22

- 6 設置の趣旨において、大学の教育研究に関する国際化の積極的な取組の必要性が記載され、ディプロマ・ポリシーにも国際的視点から医療と薬学の諸問題に対応できる人材の養成がうたわれているが、本研究科の教育課程においてどのような取組を実施していくか不明確であり、具体的に説明すること。(改善事項) . . . P・23～26

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

1. <ディプロマ・ポリシーと設置の目的が不整合>

設置の趣旨やディプロマ・ポリシーにおいては、統合医療を研究・目的の一つとして掲げているが、基本計画書における大学院の目的、学部の目的等においては統合医療についての言及がないため、適切に改めること。

(対応)

基本計画書における大学院の目的、学部の目的等において、統合医療について言及していなかったため、基本計画書の「大学院の目的」と「新設学部等の目的」を改めた。また、第一薬科大学大学院 学則 第1章 総則の(目的)第1条と第2章 薬学研究科の(博士課程の目的)第4条においても、統合医療について言及していなかったため、統合医療について言及したものに改めた。

(新旧対照表) 基本計画書 「大学院の目的」、「新設学部等の目的」 (新1ページ)

新	旧
<p>(1ページ)</p> <p>「大学院の目的」</p> <p>建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を教育理念とし、薬学の学術理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与するとともに、<u>漢方薬と西洋薬を組み合わせる</u>て行う「<u>統合医療</u>」を進化、発展させることにより医療・福祉の向上に貢献することを目的とする。</p> <p>「新設学部等の目的」</p> <p>【薬学専攻 博士課程】</p> <p>「薬」に関する深い専門的知識・技術を身につけ、基礎薬学及び臨床薬学に関する研究活動を自立して遂行し、新たな課題を見出して、それに取り組むことができる高度な研究能力を有するとともに、<u>最新の研究機器と最先端技術を駆使して西洋薬及び「補完・代替医療」の中核となる漢方薬や伝統薬の作用機序を解明する研究を通し</u></p>	<p>(1ページ)</p> <p>「大学院の目的」</p> <p>建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を教育理念とし、薬学の学術理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与するとともに、医療福祉の向上に貢献することを目的とする。</p> <p>「新設学部等の目的」</p> <p>【薬学専攻 博士課程】</p> <p>「薬」に関する深い専門的知識・技術を身につけ、基礎薬学および臨床薬学に関する研究活動を自立して遂行し、新たな課題を見出してそれに取り組むことができる高度な研究能力を有する薬剤師、薬学教育者あるいは薬学研究者の育成を目的とする。</p>

て、「 <u>統合医療</u> 」を実践できる薬学教育者 あるいは薬学研究者の育成を目的とする。	
---	--

(新旧対照表) 第一薬科大学 学則 「目的」、「博士課程の目的」 (新1ページ)

新	旧
<p>(1ページ)</p> <p>第1章 総則</p> <p>(目的)</p> <p>本大学院は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を教育理念とし、薬学の学術理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与するとともに、<u>漢方薬と西洋薬を組み合わせて行う「統合医療」により医療・福祉の向上に貢献することを目的とする。</u></p> <p>第2章 薬学研究科</p> <p>(博士課程の目的)</p> <p>第4条 「薬」に関する深い専門的知識・技術を身につけ、<u>基礎薬学及び臨床薬学に関する研究活動を自立して遂行し、新たな課題を見出して、それに取り組むことができる高度な研究能力を有するとともに、最新の研究機器と最先端技術を駆使して西洋薬及び「補完・代替医療」の中核となる漢方薬や伝統薬の作用機序を解明する研究を通して、「統合医療」を実践できる薬学教育者あるいは薬学研究者の育成を目的とする。</u></p>	<p>(1ページ)</p> <p>第1章 総則</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 本大学院は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を教育理念とし、薬学の学術理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与するとともに、医療福祉の向上に貢献することを目的とする。</p> <p>第2章 薬学研究科</p> <p>(博士課程の目的)</p> <p>第4条 「薬」に関する深い専門的知識・技術を身につけ、<u>基礎薬学および臨床薬学に関する研究活動を自立して遂行し、新たな課題を見出してそれに取り組むことができる高度な研究能力を有する薬剤師、薬学教育者あるいは薬学研究者の育成を目的とする。</u></p>

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

2. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しについて、既設の薬学部における過去の入学定員充足率が高いとは言えないことに加え、既設学部の在学学生アンケートをみる限り、卒業後すぐに大学院への進学を希望する者が少数であることを踏まえると、学生確保を十分に行えるか懸念が残る。このため、客観的な根拠に基づいて学生確保の見通しを具体的に説明すること。

(対応)

既設学部の在学学生アンケートは新型コロナウイルスによる感染症発生前の 2019 年 12 月 6 日～13 日の間に実施したものである。是正事項 2 に対応して、この度改めて、2020 年 7 月 28 日～8 月 5 日の期間に本学在学学生に対して大学院進学ニーズに関するアンケートを実施した。アンケートは本学大学院への進学ニーズについての絞った内容とし、新型コロナウイルス感染症拡散防止のためオンラインで実施した。その結果、進学希望者が確認できたため、今回得られた根拠に基づいて修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 1 ページ)

新	旧
(1 ページ) 事前調査の結果、大学院設置予定の令和 3 (2021) 年に卒業する現 <u>6 年生</u> の中で大学院進学を希望する者又は検討している者は <u>9 名</u> おり、そのうち第一薬科大学大学院を希望している学生は <u>4 名</u> であった。	(1 ページ) 事前調査の結果、大学院設置予定の令和 3 (2021) 年に卒業する現 <u>5 年生</u> の中で大学院進学希望者は <u>6 名</u> おり、そのうち第一薬科大学大学院を希望している学生は <u>2 名</u> であった。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (新 2～6 ページ、資料 4-1～7)

新	旧
(2 ページ) また、本学の大学院に関するアンケート調査を、志願者として予想される本学薬学部 (6 年制) の 1 年生から 6 年生を対象に令和 2 (2020) 年 7 月 28 日から 8 月 5 日の期間に実施した。(資料 4-1～7) 「卒業後の大学院の受験先」として、大学院設置予定の令和 3 (2021) 年に卒業する現 <u>6 年生</u> の中で大学院進学を希望する者又は検討している者は <u>9 名</u> おり、そのうち「第	(2 ページ) また、本学の大学院に関するアンケート調査を、志願者として予想される本学薬学部 (6 年制) の 1 年生から 6 年生を対象に令和元 (2019) 年 12 月 6 日から 12 月 13 日の期間に実施した。(資料 4-1～9) 「卒業後の大学院の受験先」として、大学院設置予定の令和 3 (2021) 年に卒業する現 <u>5 年生</u> の中で大学院進学希望者は <u>6 名</u> おり、そのうち「第一薬科大学大学院」を希望して

<p>一薬科大学大学院」を希望している学生は4名であった。また、本学教職員で学位取得を希望する助手3名も第一薬科大学大学院への進学を計画している。更に、「大学卒業後すぐに本学大学院に進学したい」と回答した学生は、1年生では8名、2年生では7名、3年生では4名、4年生では6名、5年生では3名であった（有効回答数605名）。社会人大大学院に対する希望もあり、将来、本学の社会人大大学院に進学したいと考えている学生は、1年生19名、2年生19名、3年生18名、4年生11名、5年生6名、6年生4名であった。卒業後すぐに進学したいと考えている学生も各学年定員の2名以上おり、将来的には社会人大大学院生として本学への進学が期待される学生も全体で77名を数え、継続的に定員は確保できると考えられる。（資料4-2～7）</p> <p>また、社会人大大学院生については、実務実習先を含めた薬局64団体、病院60団体、企業16団体及び行政3団体の143団体にアンケート調査を実施し、102団体から回答が得られた（アンケート実施期間：令和元（2019）年11月22日から12月7日）。（資料4-8,9）</p> <p>「社会人大大学院に興味がありますか」の質問に対し、「興味がある」及び「やや興味がある」と回答した薬局・病院及び企業等の団体は76団体で7割以上が興味を示しており、社会人の志願者が潜在的に大きいものと予想された。（資料4-9）以上の結果より、入学定員を充足することは十分可能と考えられる。</p> <p>(3 ページ)</p> <p>(b) 本学在学学生へのアンケート調査 <薬学科(6年制)の1年生へのアンケート</p>	<p>いる学生は2名であった。また、本学教職員で学位取得を希望する助手3名も第一薬科大学大学院への進学を計画している。更に、「大学卒業後すぐに進学したい」と回答した学生は、全体で21名（有効回答数550名）であり、本学大学院も進学先の一つであることも示している。（資料4-2～7）</p> <p>また、本学の大学院の入学資格者には、社会人も対象として考えている。本学薬学部の6年生及び実務実習先を含めた薬局64団体、病院60団体、企業16団体及び行政3団体の143団体にアンケート調査を実施し、102団体から回答が得られた。（資料4-8,9）</p> <p>「社会人大大学院に興味がありますか」の質問に対し、「興味がある」及び「やや興味がある」と回答した6年生は22名（有効回答数137名）、薬局・病院及び企業等の団体は76団体で7割以上が興味を示しており、社会人の志願者が潜在的に大きいものと予想された。（資料4-9）以上の結果より、入学定員を充足することは十分可能と考えられる。</p> <p>(3 ページ)</p> <p>(b) 本学在学学生へのアンケート調査 <薬学科(6年制)の1年生へのアンケート</p>
--	--

<p>結果（資料4-2）></p> <p>「<u>大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>大学院に進学したい</u>」又は「<u>大学院進学を検討している</u>」と回答した学生が <u>21%(21名/有効回答数99名)</u>であった。この値は、就職動向調査結果に基づいた「<u>大学院への進学率1.6%</u>」と比較しても高い数値であり、多くの学生が大学院進学を検討していることが判明した。</p> <p>（質問項目3）</p> <p>また、「<u>社会人大学院（在職したまま大学院に通える）に興味はありますか?</u>」との質問に対し、全体の <u>37%(37名/有効回答数99名)</u>の学生が「<u>ある</u>」との回答があった。この結果は、卒業後の進路希望で就職を希望している者が、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。（質問項目4）</p> <p>さらに「<u>本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか?</u>」との質問に対し、「<u>本学大学院に進学したい（学部卒業後すぐ進学）</u>」と回答した学生が <u>8名</u>及び「<u>本学大学院に進学したい（就職後社会人大学院生として）</u>」と回答した学生が <u>19名</u>おり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。（質問項目5）</p> <p><薬学科（6年制）の2年生へのアンケート結果（資料4-3）></p>	<p>結果（資料4-2）></p> <p>「<u>卒業後に大学院進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>すぐに進学したい</u>」及び「<u>いずれ進学したい</u>」と回答した学生が <u>16%(15名/有効回答数95名)</u>であった。この値は、就職動向調査結果に基づいた「<u>大学院への進学率1.6%</u>」と比較しても高い数値であり、多くの学生が大学院進学を検討していることが判明した。（質問項目2）</p> <p>「<u>大学院進学を考えている</u>」と回答した対象者に、「<u>大学院希望分野</u>」を質問したところ、<u>薬学系12名、医学系1名、理学系5名、その他・未定2名</u>であった。薬学系の大学院への進学に、<u>強い期待が伺えた</u>。（質問項目3）</p> <p>「<u>本学に大学院（博士課程）が設置された場合の受験したい大学院（複数選択可）</u>」の質問に対し、「<u>本学を受験する</u>」と回答した学生が <u>1名</u>及び「<u>未定</u>」と回答した学生が <u>8名</u>おり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。（質問項目4）</p> <p>また、「<u>社会人大学院に興味はありますか?</u>」との質問に対し、全体の <u>51%(47名/有効回答数93名)</u>の学生が「<u>興味がある</u>」及び「<u>やや興味がある</u>」との回答があった。この結果は、卒業後の進路希望で就職を希望している者が、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。</p> <p>（質問項目5）</p> <p>「<u>大学院修了後の希望進路</u>」の質問に対し、<u>全体の63%(59名/有効回答数93名)</u>の学生が「<u>病院・薬局</u>」との回答があった。この結果は、<u>高度な研究能力と臨床能力を兼ね備えた薬剤師に、強い関心を持っていることを示唆している</u>。（質問項目6）</p> <p><薬学科（6年制）の2年生へのアンケート結果（資料4-3）></p>
---	--

<p>「<u>大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>大学院に進学したい</u>」又は「<u>大学院進学を検討している</u>」と回答した学生が <u>20%(24名/有効回答数119名)</u> おり、多くの学生が大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目3)</p> <p>また、「<u>社会人大学院(在職したまま大学院に通える)に興味はありますか?</u>」との質問に対し、全体の <u>39%(47名/有効回答数119名)</u> の学生が「<u>ある</u>」との回答があった。1年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目4)</p> <p>さらに「<u>本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか?</u>」との質問に対し、「<u>本学大学院に進学したい(学部卒業後すぐ進学)</u>」と回答した学生が <u>7名</u> 及び「<u>本学大学院に進学したい(就職後社会人大学院生として)</u>」と回答した学生 <u>19名</u> おり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目5)</p>	<p>「<u>卒業後に大学院進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>すぐに進学したい</u>」及び「<u>いずれ進学したい</u>」と回答した学生が <u>13%(15名/有効回答数120名)</u> おり、多くの学生が大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目2)</p> <p>「<u>大学院進学を考えている</u>」と回答した対象者に、「<u>大学院希望分野</u>」を質問したところ、<u>薬学系14名</u> であった。1年生と同じく薬学系の大学院への進学に、強い期待が伺えた。(質問項目3)</p> <p>「<u>本学に大学院(博士課程)が設置された場合の受験したい大学院(複数選択可)</u>」の質問に対し、「<u>本学大学院</u>」2名及び「<u>未定</u>」5名との回答があり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目4)</p> <p>また、「<u>社会人大学院に興味はありますか?</u>」との質問に対し、全体の <u>38%(45名/有効回答数120名)</u> の学生が「<u>興味がある</u>」及び「<u>やや興味がある</u>」との回答があった。1年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目5)</p> <p>「<u>大学院修了後の希望進路</u>」の質問に対し、全体の <u>60%(66名/有効回答数110名)</u> の学生が「<u>病院・薬局</u>」との回答があった。1年生と同じく、高度な研究能力と臨床能力を兼ね備えた薬剤師に強い関心を持っていることを示唆している。(質問項目6)</p>
<p><薬学科(6年制)の3年生へのアンケート結果(資料4-4)></p> <p>「<u>大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>大学院に進学したい</u>」又は「<u>大学院進学を検討している</u>」と回答した学生が <u>18%(21名/有効回答数119名)</u> おり、多くの学生が大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目2)</p>	<p><薬学科(6年制)の3年生へのアンケート結果(資料4-4)></p> <p>「<u>卒業後に大学院進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>すぐに進学したい</u>」及び「<u>いずれ進学したい</u>」と回答した <u>6%(7名/有効回答数124名)</u> の学生が、大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目2)</p>

<p>討していることが判明した。(質問項目3)</p> <p>また、「<u>社会人大学院(在職したまま大学院に通える)</u>に興味はありますか?」との質問に対し、全体の38%(45名/有効回答数119名)の学生が「ある」との回答があった。</p> <p>1、2年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目4)</p> <p>さらに「<u>本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか?</u>」との質問に対し、「<u>本学大学院に進学したい(学部卒業後すぐ進学)</u>」と回答した学生が4名及び「<u>本学大学院に進学したい(就職後社会人大学院生として)</u>」と回答した学生18名おり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目5)</p>	<p>「<u>大学院進学を考えている</u>」と回答した対象者に、「<u>大学院希望分野</u>」を質問したところ、<u>薬学系14名</u>であった。1、2年生と同じく薬学系の大学院への進学に強い期待が伺えた。</p> <p>(質問項目3)</p> <p>「<u>本学に大学院(博士課程)が設置された場合の受験したい大学院(複数選択可)</u>」の質問に対し、「<u>国立大学の大学院</u>」3名及び「<u>未定</u>」3名との回答があり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目4)</p> <p>また、「<u>社会人大学院に興味はありますか?</u>」との質問に対し、全体の42%(50名/有効回答数120名)の学生が「<u>興味がある</u>」及び「<u>やや興味がある</u>」との回答があった。1、2年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目5)</p> <p>「<u>大学院修了後の希望進路</u>」の質問に対し、全体の69%(74名/有効回答数108名)の学生が「<u>病院・薬局</u>」との回答があった。1、2年生と同じく、<u>高度な研究能力と臨床能力を兼ね備えた薬剤師</u>に強い関心を持っていることを示唆している。(質問項目6)</p>
<p><薬学科(6年制)の4年生へのアンケート結果(資料4-5)></p> <p>「<u>大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>大学院に進学したい</u>」又は「<u>大学院進学を検討している</u>」と回答した学生が9%(9名/有効回答数95名)おり、他の学年と比較して若干少ないが、<u>定員2名を上回る学生が大学院進学を検討していることが判明した。</u>(質問項目3)</p> <p>また、「<u>社会人大学院(在職したまま大学院に通える)</u>に興味はありますか?」との質問に対し、全体の38%(36名/有効回答数95名)の学生が「ある」との回答があった。こ</p>	<p><薬学科(6年制)の4年生へのアンケート結果(資料4-5)></p> <p>「<u>卒業後に大学院進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>すぐに進学したい</u>」及び「<u>いずれ進学したい</u>」と回答した9%(9名/有効回答数100名)の学生が、<u>大学院進学を検討していることが判明した。</u>(質問項目2)</p> <p>「<u>大学院進学を考えている</u>」と回答した対象者に、「<u>大学院希望分野</u>」を質問したところ、<u>薬学系5名、理学・工学・農学系3名、未定2名</u>であった。<u>薬学系の大学院への進学に期待が伺えた。</u>(質問項目3)</p> <p>「<u>本学に大学院(博士課程)が設置された場</u></p>

<p>れまでの学年と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目4)</p> <p>さらに「<u>本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか?</u>」との質問に対し、「<u>本学大学院に進学したい(学部卒業後すぐ進学)</u>」と回答した学生が4名及び「<u>本学大学院に進学したい(就職後社会人大学院生として)</u>」と回答した学生18名おり、<u>本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目5)</u></p>	<p><u>合の受験したい大学院(複数選択可)」の質問に対し、「国立大学の大学院」3名、「他私立大学の大学院」1名、「未定」3名との回答があり、<u>本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった(質問項目4)。</u></u></p> <p>また、「<u>社会人大学院に興味はありますか?</u>」との質問に対し、<u>全体の28%(27名/有効回答数97名)の学生が「興味がある」及び「やや興味がある」との回答があった。</u>これまでの学年と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している(質問項目5)。</p> <p>「<u>大学院修了後の希望進路</u>」の質問に対し、<u>全体の52%(39名/有効回答数74名)の学生が「病院・薬局」との回答があった。</u>1～3年生と同じく、<u>高度な研究能力と臨床能力を兼ね備えた薬剤師に強い関心を持っていることを示唆している(質問項目6)。</u></p>
<p><薬学科(6年制)の5年生へのアンケート結果(資料4-6)></p> <p>「<u>大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?</u>」との質問に対し、「<u>大学院に進学したい</u>」又は「<u>大学院進学を検討している</u>」と回答した<u>16%(11名/有効回答数72名)の学生が、大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目3)</u></p> <p>また、「<u>社会人大学院(在職したまま大学院に通える)に興味はありますか?</u>」との質問に対し、<u>全体の28%(20名/有効回答数72名)の学生が「ある」との回答があった。</u>1～4年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目4)</p> <p>さらに「<u>本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか?</u>」との質問に対し、「<u>本学大学院に進学したい</u></p>	<p><薬学科(6年制)の5年生へのアンケート結果(資料4-6)></p> <p><u>薬学科(6年制)の5年生は本大学院入学対象となる学生である。「卒業後に大学院進学を考えていますか」との質問に対し、「すぐに進学したい」及び「いずれ進学したい」と回答した6%(7名/有効回答数109名)の学生が、大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目2)</u></p> <p>「<u>大学院進学を考えている</u>」と回答した対象者に、「<u>大学院希望分野</u>」を質問したところ、<u>薬学系6名、医学・保健学系1名であった。薬学系の大学院への進学に強い期待が伺えた。(質問項目3)</u></p> <p>「<u>本学に大学院(博士課程)が設置された場合の受験したい大学院(複数選択可)」の質問に対し、「本学の大学院」2名、「国立大学の大学院」3名、「他私立大学の大学院」1名と</u></p>

<p><u>(学部卒業後すぐ進学)」と回答した学生が4名及び「本学大学院に進学したい(就職後社会人大学院生として)」と回答した学生18名おり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目5)</u></p>	<p><u>の回答があり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目4)</u></p> <p>また、「<u>社会人大学院に興味はありますか</u>」との質問に対し、全体の27%(29名/有効回答数107名)の学生が「<u>興味がある</u>」及び「<u>やや興味がある</u>」との回答があった。1~4年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目5)</p> <p>「<u>大学院修了後の希望進路</u>」の質問に対し、全体の70%(59名/有効回答数84名)の学生が「<u>病院・薬局</u>」との回答があった。これまでの学年と同じく、高度な研究能力と臨床能力を兼ね備えた薬剤師に強い関心を持っていることを示唆している。(質問項目6)</p>
<p><薬学科(6年制)の6年生へのアンケート結果(資料4-7)></p> <p><u>薬学科(6年制)の6年生は本大学院入学対象となる学生である。「大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?」との質問に対し、「大学院に進学したい」又は「大学院進学を検討している」と回答した9%(9名/有効回答数101名)の学生が、大学院進学を検討していることが判明した。(質問項目3)</u></p> <p>また、「<u>社会人大学院(在職したまま大学院に通える)に興味はありますか?</u>」との質問に対し、全体の22%(22名/有効回答数101名)の学生が「<u>ある</u>」との回答があった。1~5年生と同じく、社会人として大学院に進学することに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目4)</p> <p>さらに「<u>本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか?</u>」との質問に対し、「<u>本学大学院に進学したい(学部卒業後すぐ進学)</u>」と回答した学生が4名及び「<u>本学大学院に進学したい(就職後</u></p>	<p><薬学科(6年制)の6年生へのアンケート結果(資料4-7)></p> <p>「<u>卒業後に大学院進学を考えていますか</u>」との質問に対し、4%(10名/有効回答数137名)の学生が「<u>すぐに進学したい</u>」及び「<u>いずれ進学したい</u>」と回答した。(質問項目2)</p> <p>「<u>大学院進学を考えている</u>」と回答した対象者に、「<u>大学院希望分野</u>」を質問したところ、<u>薬学系8名、医学・保健学系1名、理学・工学・農学系1名</u>であった。薬学系の大学院への進学希望が多かった。(質問項目3)</p> <p>「<u>本学に大学院(博士課程)が設置された場合の受験したい大学院(複数選択可)</u>」の質問に対し、「<u>本学の大学院</u>」1名、「<u>国立大学の大学院</u>」1名、「<u>他私立大学の大学院</u>」1名、「<u>未定</u>」2名との回答であった。(質問項目4)</p> <p>また、「<u>社会人大学院に興味はありますか</u>」との質問に対し、全体の24%(31名/有効回答数130名)の学生が「<u>興味がある</u>」及び「<u>やや興味がある</u>」との回答があった。1~5年生と同じく、社会人として大学院に進学するこ</p>

<p>社会人大学院生として)」と回答した学生 18 名おり、本学の大学院への進学の可能性を示す結果であった。(質問項目 5)</p> <p>資料 4-1 (対応後)</p> <p>大学院博士課程進学に関するアンケート</p> <p>第一薬科大学では令和 3 年 4 月に大学院薬学研究科博士課程が設置される予定です。大学院薬学研究科は薬学又は臨床薬学の高度な専門性を持った薬剤師又は薬学研究者の育成を目的としています。入学資格は、6 年制の大学卒又は修士の学位を持つ方、あるいはそれらと同等の学力を有する方を対象としています。そのために、在学生の皆さんに大学院進学に関する意識調査を実施することになりました。皆さんの希望や現時点での考え方で結構ですので、ぜひご協力ください。</p> <p>Q1 あなたの学年を選んでください。 ・1 年生 ・2 年生 ・3 年生 ・4 年生 ・5 年生 ・6 年生</p> <p>Q2 あなたの所属学科を教えてください。 ・薬学科 ・漢方薬学科</p> <p>Q3 大学卒業後に大学院への進学を考えていますか?</p>	<p>とに関心を持っていることを強く示唆している。(質問項目 5)</p> <p>「大学院修了後の希望進路」の質問に対し、全体の 68% (67 名/有効回答数 99 名) の学生が「病院・薬局」との回答があった。これまでの学年と同じく、高度な研究能力と臨床能力を兼ね備えた薬剤師に強い関心を持っていることを示唆している。(質問項目 6)</p> <p>資料 4-1</p> <p>大学院博士課程進学に関するアンケート 第一薬科大学</p> <p>第一薬科大学では大学院薬学研究科博士課程の設置を計画しています。大学院薬学研究科は薬学および臨床薬学の高度な専門性を持った薬剤師及び薬学研究者の育成を目的としています。入学資格は、6 年制の大学卒又は修士の学位を持つ方、あるいはそれらと同等の学力を有する方を対象としています。そのために、在学生の皆さんに大学院進学に関する意識調査を実施することになりました。皆さんの希望や現時点での考え方で結構ですので、ぜひご協力ください。</p> <p>Q1 あなたの所属学科を教えてください。 1 薬学科 2 漢方薬学科</p> <p>Q2 大学卒業後に大学院への進学を考えていますか? 1 卒業後すぐに進学したい 2 いずれ進学したい 3 進学しない 4 未定</p>
--	---

<p>・大学院に進学したい。</p> <p>・大学院進学を検討している。</p> <p>・大学院進学は考えていない。</p> <p>Q4 社会人大学院（在職したまま大学院に通える）に興味はありますか？</p> <p>・ある</p> <p>・ない</p> <p>Q5 本学に大学院が設置された場合、本学の大学院に進学を希望しますか？</p> <p>・本学大学院に進学したい（学部卒業後すぐ進学）</p> <p>・本学大学院に進学したい（就職後 社会人大学院生として）</p> <p>・進学しない</p> <p>以上 ご協力ありがとうございました。</p> <p>資料 4-2（対応後）</p> <p>資料 4-3（対応後）</p>	<p>3,4 回答者は Q4 へ</p> <p>Q3 Q2 で 1 又は 2 を選んだ方の大学院希望分野を教えてください。</p> <p>1 薬学系 2 医学・保健学系 3 理学・工学・農学系 4 その他 5 未定</p> <p>2～5 回答者は Q5 へ</p> <p>Q4 Q3 で 1 を選んだ方に伺います。本学に大学院が設置された場合をお考えください。受験したい大学院はどこですか？（複数選択可）</p> <p>—</p> <p>1 第一薬科大学大学院 2 国立大学の大学院 3 他私立大学の大学院 4 未定</p> <p>Q5 社会人大学院（在職したまま大学院に通える）に興味はありますか？</p> <p>1 興味がある 2 やや興味がある 3 興味が無い 4 わからない</p> <p>Q6 大学院修了後の希望進路を聞かせてください。</p> <p>1 製薬会社 2 研究職 3 病院・薬局 4 大学 5 わからない</p> <p>質問は以上です。ご協力ありがとうございました。</p> <p>資料 4-2</p> <p>資料 4-3</p>
--	---

<u>資料 4-4 (対応後)</u>	<u>資料 4-4</u>
<u>資料 4-5 (対応後)</u>	<u>資料 4-5</u>
<u>資料 4-6 (対応後)</u>	<u>資料 4-6</u>
<u>資料 4-7 (対応後)</u>	<u>資料 4-7</u>

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

3. <外国人留学生への対応が不明確>

外国人留学生の積極的な受け入れを図るとあるが、資格要件・履修指導・生活指導等についての記載がない。外国人留学生の、経費支弁能力の確認、入学後の履修指導、生活指導、在籍管理体制について明らかにすること。

(対応)

- 1) 外国人留学生を受け入れるにあたり、経費支弁能力を含む資格要件については「入学者選抜の方法」において「一般入試」と区別して新たに外国人特別入試の項を設け、具体的に記載した。
- 2) 外国人留学生の入学後の履修指導については、「④ 課題研究科目の教育方法、履修指導及び研究指導の方法」の項に留学生が予め指導を希望している指導教員を通じて入学時に実施するガイダンス内容の周知を図ることを明記した。
- 3) 外国人留学生の入学後の生活指導と支援策として、新たに事務組織に大学院学生の教育課程履修管理、学位申請にかかる事務手続き等を行う大学院事務部を設置するとともに、事務部内に外国人留学生の学業生活支援、在籍管理等を行う留学生支援窓口を設けることを明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新17~18ページ)

新	旧
<p>(17 ページ)</p> <p>2) <u>一般入試</u></p> <p>書類審査、面接試験及び筆記試験 (英語、専門科目) により合格判定を行う。出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</p> <p>① 大学薬学部 (標準年限を6年とする課程) を卒業見込みの者</p> <p>② 大学薬学部 (標準年限を6年とする課程) を卒業した者</p> <p>③ <u>大学の医学部、歯学部、獣医学部 (標準年限を6年とする課程) を卒業した者又は卒業見込みの者</u></p> <p>④ <u>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は修了見込みの者</u></p>	<p>(17 ページ)</p> <p>2) 一般入試 <u>(外国人を含む)</u></p> <p>書類審査及び面接試験並びに筆記試験 (英語、専門科目) により合格判定を行う。出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</p> <p>① 大学薬学部 (標準年限を 6 年とする課程) を卒業見込みの者</p> <p>② 大学薬学部 (標準年限を 6 年とする課程) を卒業した者</p> <p>③ 大学の医学部、歯学部、獣医学部 (標準年限を 6 年とする課程) を卒業した者</p> <p>④ 大学院の修士課程を修了した者</p> <p>⑤ <u>外国において、学校教育における 18 年の課程を修了した者</u></p> <p>⑥ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p>

<p>⑤ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p> <p>⑥ <u>その他、本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は入学時の3月31日までに24歳に達する者。</u></p> <p>3) 外国人留学生特別入試</p> <p><u>日本の国籍を有しない者で、出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者、又は大学院入学後に在留資格を「留学」に変更可能な者。また、出願に先立ち、志望専門分野指導教員の面接を受けて出願の了承が得られた者。外国人留学生特別入試は、書類審査、面接試験及び筆記試験（英語、専門科目）により合格判定を行う。出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</u></p> <p>① <u>大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業見込みの者</u></p> <p>② <u>大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者</u></p> <p>③ <u>大学の医学部、歯学部又は獣医学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者又は卒業見込みの者</u></p> <p>④ <u>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は修了見込みの者</u></p> <p>⑤ <u>外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者</u></p> <p>⑥ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p> <p>⑦ <u>その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は入学時の3月31日までに24歳に達する者。</u></p>	<p>⑦ <u>その他、本大学院において大学の薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者</u></p>
--	--

<p>なお、出願資格を有し志望専門分野の指導教員より出願の了承が得られた者は、以下のものを提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>最終学歴の成績証明書</u> ● <u>指導教員の推薦書</u> ● <u>連帯保証人（2名）の同意書</u> <p><u>連帯保証人は、入学時及び入学後の学業継続（入学料、年間授業料、日本での生活費等）等に係る経費の支弁を保証する者</u></p>	
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新10ページ)

新	旧
<p>(10 ページ)</p> <p>① <u>課題研究科目の教育方法、履修指導及び研究指導の方法</u></p> <p>入学生に対しガイダンスを実施し、科目の履修方法、取得すべき単位及び博士論文作成までの過程等、入学から修了までのスケジュールを周知する。<u>なお、外国人留学生については、予め指導を希望する指導教員を通じてガイダンス内容の周知を図る。</u>課題研究は必修科目であり年次を通して 18 単位が設定される。その後、大学院生は希望する所属領域と担当指導教員を申請する。大学院研究科委員会において、申請に基づき課題研究領域及び担当指導教員を決定する。</p>	<p>(10 ページ)</p> <p>① 課題研究科目の教育方法、履修指導及び研究指導の方法</p> <p>入学生に対しガイダンスを実施し、科目の履修方法、取得すべき単位及び博士論文作成までの過程等、入学から修了までのスケジュールを周知する。課題研究は必修科目であり年次を通して 18 単位が設定される。その後、大学院生は希望する所属領域と担当指導教員を申請する。大学院研究科委員会において、申請に基づき課題研究領域及び担当指導教員を決定する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨及び必要性 (新13ページ)

新	旧
<p>(13 ページ)</p> <p><u>(4) 大学院事務部及び留学生支援窓口の設置</u></p> <p><u>事務組織として大学院事務部を設置し、</u></p>	

<p><u>大学院学生の教育課程履修管理、学位申請にかか</u> <u>る事務手続き等を行うほか、留学生支援の窓口を設ける。</u></p> <p><u>留学生支援窓口は、留学生の生活・学業継続を支援するとともに「在籍確認簿」を作成して在籍管理を行う。なお、外国人留</u> <u>学生の受け入れ指導教員は、「在籍確認簿」に月毎の留学生在籍状況を記載して報告するものとする。</u></p> <p><u>新規受入れの外国人留学生の生活や履修等、円滑な学業開始を図るための支援として1年間を期限としてチューターを配置する。チューターには本学日本人学生もしくは大学院生を採用する。</u></p>	
--	--

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

4. <入学者選抜が不明確>

入学者選抜について、以下の点が不明確であることから、明確に説明すること。

(1) 募集人員は各選抜方法合わせて2名としており、複数設けられている選抜方法の優先順等が不明確なため、明確に説明すること。また、選抜全体の採用方針についても明確に説明すること。

(2) アドミッション・ポリシーでは「薬学に関する基礎的学力と研究技術を身に着けている」学生を受け入れることが求められているが、例えば社会人入試においては、出願資格において必ずしも大学の薬学分野に関する履修経験を求めておらず、専門科目等も課していないことから、同項目に基づいた学生を選抜できるか明確ではない。各選抜方法において、当該能力をどのように判定するのか、具体的に説明するか適切に改めること。

(対応)

(1) 各選抜方法の優先順位は薬学部卒業生を基本とするが、選抜全体の採用方針についても見直しを行った。

(2) 社会人入試の選抜方法について見直しを行い、新たに外国人留学生特別入試を設けて各選抜方法についての判定方法を明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (新 16~20 ページ)

新	旧
<p>(16 ページ)</p> <p>① 入学者選抜の指針</p> <p>大学院入学者の選抜は、「大学院入試実施要項(薬学専攻博士課程)」に沿って、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生錬磨」に共鳴するとともに、<u>将来、「西洋医学と東洋医学を基盤とした薬学の発展」</u>をめざし、高度な研究能力を有する人材として臨床及び基礎薬学の発展に貢献したいという情熱を持ち、<u>大学院博士課程の教育を受けるに相応した態度、技能、倫理観及びリーダーシップの資質</u>を有する者を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施する。入学者の選抜は社会のニーズに配慮するとともに、本学の特性に最も適した方式として計画する。定員を2名とし、下記の入学者選抜を実施する。</p>	<p>(16 ページ)</p> <p>① 入学者選抜の指針</p> <p>大学院入学者の選抜は、「大学院入試実施要項(薬学専攻博士課程)」に沿って、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生錬磨」に共鳴するとともに、<u>将来、「西洋医学と東洋医学の融合」</u>をめざし、高度な研究能力を有する人材として臨床及び基礎薬学の発展に貢献したいという情熱を持ち、<u>大学院博士課程の教育を受けるに相応しい能力・適性等</u>を有する者を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施する。入学者の選抜は社会のニーズに配慮するとともに、本学の特性に最も適した方式として計画する。定員を2名とし、下記の入学者選抜を実施する。</p>

- 1) 推薦入試
- 2) 一般入試
- 3) 外国人留学生特別入試
- 4) 社会人入試

入学者選抜者試験の定員については薬学部卒業生を優先し、1) 推薦入試で1名、2) 一般入試、外国人留学生特別入試又は社会人入試で1名とした。選抜試験の状況においては、定員の確保ができるよう努める。

1) 推薦入試

大学在学中の成績を含めた書類審査、面接試験及び筆記試験（英語，小論文）により合格判定を行う。

出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。

- ① 本学薬学部に在学する6年次学生で、6年次までの成績が原則として上位3分の1以内の席次で、研究意欲を持ち、指導教員の推薦が得られる者
- ② 本学と同じ建学精神を有する関連大学の6年制薬学部に在籍している6年次学生で、研究意欲を持ち、所属する大学の指導教員又は学部長の推薦が得られる者

推薦入試入学試験科目

英語	小論文	面接試験
英語（教養英語、自然科学及び薬学英語）	小論文（試験時に課題を示す）	卒業論文内容の発表と質疑応答

2) 一般入試

書類審査、面接試験及び筆記試験（英語，専門科目）により合格判定を行う。出

- 1) 推薦入試
- 2) 一般入試 (外国人を含む)
- 3) 社会人入試

1) 推薦入試

大学在学中の成績を含めた書類審査及び面接試験（卒業論文内容の発表と質疑応答も含む）並びに筆記試験（英語，小論文）により合格判定を行う。

出願資格は、本学の6年制学科を卒業見込みの者および本学と同じ建学精神を有する関連大学の薬学に関する学部の6年制学科を卒業見込の者とする。

2) 一般入試 (外国人を含む)

書類審査及び面接試験並びに筆記試験

<p>願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</p> <p>① 大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業見込みの者</p> <p>② 大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者</p> <p>③ <u>大学の医学部、歯学部、獣医学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者又は卒業見込みの者</u></p> <p>④ <u>修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は修了見込みの者</u></p> <p>⑤ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p> <p>⑥ <u>その他、本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は入学時の3月31日までに24歳に達する者</u></p> <p>3) <u>外国人留学生特別入試</u> <u>日本の国籍を有しない者で、出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者又は大学院入学後に在留資格を「留学」に変更可能な者。また、出願に先立ち、志望専門分野指導教員の面接を受けて出願の了承が得られた者。外国人留学生特別入試は、書類審査、面接試験及び筆記試験（英語、専門科目）により合格判定を行う。出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</u></p> <p>① <u>大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業見込みの者</u></p> <p>② <u>大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者</u></p> <p>③ <u>大学の医学部、歯学部又は獣医学部</u></p>	<p>（英語、専門科目）により合格判定を行う。出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</p> <p>① 大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業見込みの者</p> <p>② 大学薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者</p> <p>③ <u>大学の医学部、歯学部、獣医学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者</u></p> <p>④ <u>大学院の修士課程を修了した者</u></p> <p>⑤ <u>外国において、学校教育における18年の課程を修了した者</u></p> <p>⑥ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p> <p>⑦ <u>その他、本大学院において大学の薬学部（標準年限を6年とする課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者</u></p>
--	--

<p>(標準年限を6年とする課程)を卒業した者又は卒業見込みの者</p> <p>④ 修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は修了見込みの者</p> <p>⑤ 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者又は授与される見込みの者</p> <p>⑥ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p> <p>⑦ その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は入学時の3月31日までに24歳に達する者</p> <p>なお、出願資格を有し志望専門分野の指導教員より出願の了承が得られた者は、以下のものを提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 最終学歴の成績証明書 ● 指導教員の推薦書 ● 連帯保証人(2名)の同意書 <p>連帯保証人は、入学時及び入学後の学業継続(入学料、年間授業料、日本での生活費等)等に係る経費の支弁を保証する者</p> <p>4) 社会人入試</p> <p>社会人として博士課程に入学できる者は、(1) 病院もしくは薬局に勤務する薬剤師又は(2) 企業などにおいて2年以上(入学時点)勤務経験のある者で、(1)、(2)いずれも所属長の許可を受け、入学後も引き続きその身分を有する者</p> <p>社会人入試においては、業務経歴書を提出させ、書類審査、面接試験及び筆記試験(英語、専門科目)により合格判定を行う。出願資格は、以下のいずれかに該当する者とする。</p> <p>①大学薬学部(標準年限を6年とする課</p>	<p>3) 社会人入試</p> <p>社会人として博士課程に入学できる者は、企業等に所属し、入学後も引き続きその身分を有する者で、上記2)一般入試の出願資格のいずれかに該当するものとする。</p> <p>社会人入試においては、業務経歴書を提出させ、書類審査及び面接試験並びに筆記試験(英語、小論文)により合格判定を行う。</p>
---	--

<p>程)を卒業した者</p> <p>②大学の医学部、歯学部又は獣医学部(標準年限を6年とする課程)を卒業した者</p> <p>③ 修士の学位若しくは専門職学位を有する者</p> <p>④ 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者</p> <p>⑤ 文部科学大臣の指定した課程等を修了した者</p> <p>⑥ その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は入学時の3月31日までに24歳に達する者</p> <p>一般入試、外国人留学生特別入試及び社会人入試選抜の筆記試験科目</p>	<p>筆記科目試験</p>										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="260 958 416 1010">英語</th> <th data-bbox="416 958 794 1010">専門科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="260 1010 416 1870">英語(教養英語、自然科学及び薬学英語)</td> <td data-bbox="416 1010 794 1870"> <p>① 有機化学</p> <p>② 天然物化学・分析化学</p> <p>③ 生薬学・和漢薬物学</p> <p>④ 生化学・分子生物学</p> <p>⑤ 薬理学・機能形態学</p> <p>⑥ 微生物・免疫学</p> <p>⑦ 衛生化学・環境衛生学</p> <p>⑧ 臨床薬剤学・薬剤設計学</p> <p>⑨ 病態生理学・薬物治療学</p> <p>⑩ 医療薬学</p> <p>①～⑩の中から1つを選択する。</p> <p>※外国人留学生特別入試においては、英語で出題。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	英語	専門科目	英語(教養英語、自然科学及び薬学英語)	<p>① 有機化学</p> <p>② 天然物化学・分析化学</p> <p>③ 生薬学・和漢薬物学</p> <p>④ 生化学・分子生物学</p> <p>⑤ 薬理学・機能形態学</p> <p>⑥ 微生物・免疫学</p> <p>⑦ 衛生化学・環境衛生学</p> <p>⑧ 臨床薬剤学・薬剤設計学</p> <p>⑨ 病態生理学・薬物治療学</p> <p>⑩ 医療薬学</p> <p>①～⑩の中から1つを選択する。</p> <p>※外国人留学生特別入試においては、英語で出題。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="826 241 948 293">英語</th> <th data-bbox="948 241 1214 293">専門科目</th> <th data-bbox="1214 241 1356 293">小論文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="826 293 948 1870">英語(教養英語、自然科学及び薬学英語)</td> <td data-bbox="948 293 1214 1870"> <p>① 有機化学</p> <p>② 天然物化学・分析化学</p> <p>③ 生薬学・和漢薬物学</p> <p>④ 生化学・分子生物学</p> <p>⑤ 薬理学・機能形態学</p> <p>⑥ 微生物・免疫学</p> <p>⑦ 衛生化学・環境衛生学</p> <p>⑧ 臨床薬剤学・薬剤設計学</p> <p>⑨ 病態生理学・薬物治療学</p> <p>⑩ 医療薬学</p> <p>①～⑩の中から1つを選択する。</p> </td> <td data-bbox="1214 293 1356 1870"> <p>小論文(試験時に課題を示す)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	英語	専門科目	小論文	英語(教養英語、自然科学及び薬学英語)	<p>① 有機化学</p> <p>② 天然物化学・分析化学</p> <p>③ 生薬学・和漢薬物学</p> <p>④ 生化学・分子生物学</p> <p>⑤ 薬理学・機能形態学</p> <p>⑥ 微生物・免疫学</p> <p>⑦ 衛生化学・環境衛生学</p> <p>⑧ 臨床薬剤学・薬剤設計学</p> <p>⑨ 病態生理学・薬物治療学</p> <p>⑩ 医療薬学</p> <p>①～⑩の中から1つを選択する。</p>	<p>小論文(試験時に課題を示す)</p>
英語	専門科目										
英語(教養英語、自然科学及び薬学英語)	<p>① 有機化学</p> <p>② 天然物化学・分析化学</p> <p>③ 生薬学・和漢薬物学</p> <p>④ 生化学・分子生物学</p> <p>⑤ 薬理学・機能形態学</p> <p>⑥ 微生物・免疫学</p> <p>⑦ 衛生化学・環境衛生学</p> <p>⑧ 臨床薬剤学・薬剤設計学</p> <p>⑨ 病態生理学・薬物治療学</p> <p>⑩ 医療薬学</p> <p>①～⑩の中から1つを選択する。</p> <p>※外国人留学生特別入試においては、英語で出題。</p>										
英語	専門科目	小論文									
英語(教養英語、自然科学及び薬学英語)	<p>① 有機化学</p> <p>② 天然物化学・分析化学</p> <p>③ 生薬学・和漢薬物学</p> <p>④ 生化学・分子生物学</p> <p>⑤ 薬理学・機能形態学</p> <p>⑥ 微生物・免疫学</p> <p>⑦ 衛生化学・環境衛生学</p> <p>⑧ 臨床薬剤学・薬剤設計学</p> <p>⑨ 病態生理学・薬物治療学</p> <p>⑩ 医療薬学</p> <p>①～⑩の中から1つを選択する。</p>	<p>小論文(試験時に課題を示す)</p>									

(是正事項) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

5. <学習成果の評価方法や学位審査の体制が不明確>
 学習成果の評価方法や学位審査の体制について、概略の説明のみで全般的に不明確であることから、学習成果の評価方法や学位審査に関する内規・規程・同審査における審査体制の規定等、プロセス全体が分かる資料を示すこと。

(対応)

学修成果の評価方法は、すべてのシラバスに「到達目標」及び「評価方法及び評価基準」を設けて評価している。

学位審査の体制については、新規に「第一薬科大学大学院学位規程」、及び「第一薬科大学大学院薬学研究科学位（博士）の論文審査に関する内規」を作成した。これにより、学位審査における審査体制プロセスを明確とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (新 13 ページ)

新	旧
<p>(13 ページ)</p> <p><u>学位論文審査から学位授与までのプロセスについては、「第一薬科大学大学院学位規程」及び「第一薬科大学大学院薬学研究科学位（博士）の論文審査に関する内規」に準ずるものとする。</u></p> <p>なお、大学は学位規則に則り、学位授与後、3ヶ月以内に論文の要旨及び学位論文審査の結果を第一薬科大学ホームページにて公開する。また、印刷した学位論文は、国立国会図書館及び本学図書館において1年以内に公開する。</p> <p>【資料5 第一薬科大学大学院学位規程】 【資料6 第一薬科大学大学院薬学研究科学位（博士）の論文審査に関する内規】</p> <p>(3) 倫理審査体制について (中略)</p> <p>【資料7 研究倫理委員会規程】 【資料8 動物実験倫理委員会規程】 【資料9 組換えDNA安全管理委員会規程】 (中略)</p> <p>【資料10 基礎となる薬学部研究組織と大学院研究組織との関係】</p>	<p>(13ページ)</p> <p><u>学位論文審査から学位授与までのプロセスは以下のとおりである。</u></p> <p style="text-align: center;">(中略)</p> <p>なお、大学は学位規則に則り、学位授与後、3ヶ月以内に論文の要旨及び学位論文審査の結果を第一薬科大学ホームページにて公開する。また、印刷した学位論文は、国立国会図書館及び本学図書館において1年以内に公開する。</p> <p>(3) 倫理審査体制について (中略)</p> <p>【資料5 研究倫理委員会規程】 【資料6 動物実験倫理委員会規程】 【資料7 組換えDNA安全管理委員会規程】 (中略)</p> <p>【資料8 基礎となる薬学部研究組織と大学院研究組織との関係】</p>

(改善事項) 薬学研究科 薬学専攻 (D)

6. <教育研究の国際化に対する教育課程への反映が不明確>

設置の趣旨において、大学の教育研究に関する国際化の積極的な取組の必要性が記載され、ディプロマ・ポリシーにも国際的視点から医療と薬学の諸問題に対応できる人材の養成がうたわれているが、本研究科の教育課程においてどのような取組を実施していくか不明確であり、具体的に説明すること。

(対応)

本研究科の教育課程に国際化を積極的に取り組むために共通科目である「大学院特別講義」(必修)の内容を改訂し、「外国人を含む国内外の研究者を講師として招聘し、国内外の最新の研究状況に触れることにより国際性を身につけさせる」ことを明記した。同時に「大学院特別講義」のシラバスも改訂した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新9ページ)

新	旧
<p>(9 ページ)</p> <p>(3) 教育課程の特色</p> <p>授業科目において、教育課程の特徴のひとつは、「研究倫理特論」と「統合医療特論」を配置したことである。近年研究の遂行上、研究者が社会の一員として社会的な規則の遵守を求められており、大学から大学院へ進学して更なる専門的な研究を自らの力で行うにあたり、研究倫理を改めて総合的に学ぶことは大変意義深く重要なことである。また、本学が推進しようとしている「統合医療」についての概念を理解して各々の研究を推進することも必要であると考え</p> <p>また、必修科目として「大学院特別講義」では、<u>外国人を含む国内外</u>の研究者による最先端の研究についての講演を聴講する。自分の課題研究に取り組むにあたり、研究手法、発想の柔軟性など自己の研究推進につながる<u>とともに国際性を身につける</u>。</p>	<p>(9 ページ)</p> <p>(3) 教育課程の特色</p> <p>授業科目において、教育課程の特徴のひとつは、「研究倫理特論」と「統合医療特論」を配置したことである。近年研究の遂行上、研究者が社会の一員として社会的な規則の遵守を求められており、大学から大学院へ進学して更なる専門的な研究を自らの力で行うにあたり、研究倫理を改めて総合的に学ぶことは大変意義深く重要なことである。また、本学が推進しようとしている「統合医療」についての概念を理解して各々の研究を推進することも必要であると考え</p> <p>また、必修科目として「大学院特別講義」では、<u>学外</u>の研究者による最先端の研究についての講演を聴講する。自分の課題研究に取り組むにあたり、研究手法、発想の柔軟性など自己の研究推進につながる<u>ことにもなる</u>。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (新 10～11 ページ)

新	旧
<p>(10 ページ)</p> <p>② 講義科目の教育方法</p> <p>「研究倫理特論」は必修科目であり、1年次の前期に開講する。オムニバス形式で、各項目の専門家が研究に必要な倫理や法規制について講義する。「漢方薬特論」及び「統合医療特論」も必修科目として1年次に開講する。各自の研究テーマへの本格的な取り組みの前に、本学が定義する「統合医療」の考え方を学ぶことにより、薬物療法に関する幅広い教養を身につける。その他の「特論」は、選択科目として1、2年次の前期、後期に開講し、担当教員が単独あるいはオムニバス形式で講義する。これらの講義科目は課題研究の遂行のための知識とする他、広く応用力のある研究思考が可能になるように、課題研究の合間に設定し、3～4年次には、課題研究に集中できるように配慮している。科目の評価方法は、主に提出されたレポートに対して評価するものとし、受講して得た知識に自らの調査を加え、方向性を持った情報の集積力が身につけられるようにする。「大学院特別講義」(必修科目)では、<u>外国人を含む国内外</u>の研究者による最先端の研究の講演を聴講し、講演最後の質疑応答に参加し、レポートを提出することにより研究内容の理解力を評価する。担当教員が分担して、各講演の世話をし、レポートの採点を行う。講演者の決定は研究科委員会において行い、一つの領域に偏らず幅広い分野からの講演を聴けるように配慮する。</p>	<p>(11 ページ)</p> <p>② 講義科目の教育方法</p> <p>「研究倫理特論」は必修科目であり、1年次の前期に開講する。オムニバス形式で、各項目の専門家が研究に必要な倫理や法規制について講義する。「漢方薬特論」及び「統合医療特論」も必修科目として1年次に開講する。各自の研究テーマへの本格的な取り組みの前に、本学が定義する「統合医療」の考え方を学ぶことにより、薬物療法に関する幅広い教養を身につける。その他の「特論」は、選択科目として1、2年次の前期、後期に開講し、担当教員が単独あるいはオムニバス形式で講義する。これらの講義科目は課題研究の遂行のための知識とする他、広く応用力のある研究思考が可能になるように、課題研究の合間に設定し、3～4年次には、課題研究に集中できるように配慮している。科目の評価方法は、主に提出されたレポートに対して評価するものとし、受講して得た知識に自らの調査を加え、方向性を持った情報の集積力が身につけられるようにする。「大学院特別講義」(必修科目)では、<u>学外</u>の研究者による最先端の研究の講演を聴講し、講演最後の質疑応答に参加し、レポートを提出することにより研究内容の理解力を評価する。担当教員が分担して、各講演の世話をし、レポートの採点を行う。講演者の決定は研究科委員会において行い、一つの領域に偏らず幅広い分野からの講演を聴けるように配慮する。</p>

(新旧対照表) シラバス(授業計画)

新	旧
<p>「大学院特別講義」 基礎薬学領域及び臨床薬学領域における<u>国内外の外部</u>の招聘講師による特別講演を聴講することで、海外を含む最先端の研究に触れる。積極的な質疑応答を通して研究内容の理解を深めるとともに、<u>国際性を身につける。その内容をレポートにまとめる。</u></p> <p>「大学院特別講義」 到達目標 幅広い学問分野として薬学に<u>関係する国内外の先端研究</u>を理解し、研究のベースを広げる。</p> <p>授業概要（教育目標・GIO） 幅広い学問分野としての薬学に<u>関わる国内外の先端研究</u>を理解し、研究のベースを広げる。授業概要（教育目的・GIO）基礎薬学領域及び臨床薬学領域の<u>海外を含む外部</u>からの招聘講師による特別講演を聴講し、第一線の研究に触れる。積極的な質疑応答を通じて研究内容の理解を深めるとともに<u>国際性を身につける。さらに内容をレポートとしてまとめる。講演者の決定は研究科委員会において行い、一つの領域に偏らず幅広い分野からの講演を聴けるように配慮する。</u></p> <p>授業計画表 1回、項目 <u>国内外の外部講師</u>による、臨床薬学領域に関する特別講演</p> <p>2回、項目 <u>国内外の外部講師</u>による、臨床薬学領域に</p>	<p>「大学院特別講義」 基礎薬学領域および臨床薬学領域における外部の招聘講師による特別講演を聴講することで、最先端の研究に触れる。積極的な質疑応答を通して研究内容の理解を深めるとともに、内容をレポートにまとめる。</p> <p>「大学院特別講義」 到達目標 幅広い学問分野としての薬学<u>の先端研究</u>を理解し、研究のベースを広げる。</p> <p>授業概要（教育目標・GIO） 幅広い学問分野としての薬学<u>の先端研究</u>を理解し、研究のベースを広げる。授業概要（教育目的・GIO）基礎薬学領域および臨床薬学領域の外部からの招聘講師による特別講演を聴講し、第一線の研究に触れる。積極的な質疑応答を通じて研究内容の理解を深める、さらに内容をレポートとしてまとめる。講演者の決定は研究科委員会において行い、一つの領域に偏らず幅広い分野からの講演を聴けるように配慮する。</p> <p>授業計画表 1回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に関する特別講演</p> <p>2回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に関する</p>

関係する特別講演	特別講演
3回、項目 <u>国内外の外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演</u>	3回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演
4回、項目 <u>国内外の外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演</u>	4回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演
5回、項目 <u>国内外の外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演</u>	5回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演
6回、項目 <u>国内外の外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演</u>	6回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演
7回、項目 <u>国内外の外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演</u>	7回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演
8回、項目 <u>国内外の外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演</u>	8回、項目 外部講師による、臨床薬学領域に 関係する特別講演